

シドニー派遣での経験

名古屋市立山田高等学校 2年 春見小夏

1. 私の研修の目標

私の夢は、ツアーガイドになることです。そのため、海外の方に日本のことを伝えられる、また自分の英語でどれくらい伝えられるかを試すことができる良い機会だと思いこの派遣事業に応募しました。さらにオーストラリアでの生活のなかで、実際に文化や歴史に触れ、日本との違いを感じることを目標としました。

2. 事前の準備

海外派遣の事前研修の際に学校ごとで食や文化、有名な場所についてなどのテーマを決め、プレゼンテーションを行うことでお互いの調べた情報を共有し、名古屋についての知識を深めました。また、日本の文化を伝えるために自分の家族や学校行事、着物、お城などの写真とその説明を英語で書いたアルバムを作成しました。

3. シドニーでの体験

10日間に及ぶシドニー派遣で、St. Aloysius College と Blue Mountains Grammar School (BMGS) の2校への体験入学、ホームステイ、市内の視察、JETRO・市役所の訪問など様々な体験をしました。

Blue Mountains での4日間のホームステイでは、私に本当の家族のように接し、優しく受け入れてくださったので緊張はすぐに解け、楽しい時間を過ごすことができました。BMGS ではバディと一緒に授業を受けました。生徒はパソコンを、先生はプロジェクター使って授業をしていました。また、ディスカッションの時間を多くとり、先生が一方向的に話して進めるのではなく、生徒が常に挙手をして意見を言いながら進めているのに驚き、感心しました。他にも、リセスというおやつの時間があったり、放課になると外に出て体を動かしたりする姿が多くみられたりと、日本との学校生活の違いをととても感じました。

JETRO では、オーストラリアの経済や貿易についてのお話を伺うことができました。オーストラリアと日本の仕事に対する価値観の違いや、海外から見た日本の経済などを知ることができ、新鮮でした。

シドニー市内の視察では、現地のガイドの方からその場所や施設の歴史を聞くことができました。

4. 研修の成果と今後の課題

<成果>

ホームステイや BMGS での時間で、私の研修の目標にあった日本文化を伝えるということができました。また、現地の方と過ごす中で言語や生活からオーストラリアの文化を感じ、日本との違いを見つけることができました。

初めは、自分の言いたいことを英語で伝えることに苦戦しましたが、完璧な英語でなくても現地の方が理解してくださったことから、伝えようとする姿勢と自分から話しかける積極性の大切さに気付きました。

<課題>

研修中に自分の伝えたいことがうまく伝えられない場面が何度もあり、英会話力の不足を感じたため、次に BMGS の生徒がお越しになるときには、研修のときよりも積極的に話し、英語で伝えられるようにしたいです。

また、授業に対する姿勢など研修で感じたオーストラリアの良い点を日本で私も実践したいと思います。そして、研修で学んだことを学校、名古屋市に伝える活動にも力を入れていきたいと思います。



BMGS での発表の様子